

小池俊雄教授グループ 第12回日本水大賞国際貢献賞を受賞



(写真1. 受賞団体の記念撮影、集合写真)

このたび、WCRP（世界気候研究計画）/GEWEX（全球エネルギー・水循環実験）/CEOP(Coordinated Energy and Water Cycle Observation Project：通称セオップと呼ばれる)「地球エネルギー・水循環統合観測プロジェクト」のICB（国際調整部会）が、第12回日本水大賞国際貢献賞を受賞しました。CEOPは、小池俊雄教授（EDITORIA/工学系研究科）が、2001年よりLead Scientist（のちに共同議長）を務めている国際プロジェクトであり、世界で初めて、統合的な地球水循環観測体制の確立とデータセットの作成を推進している研究プロジェクトです。

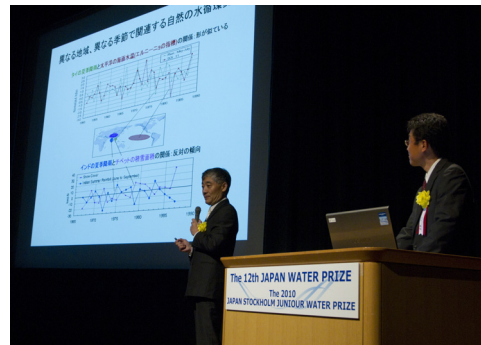
この国際プロジェクトを円滑に推進するために結成されたのが、CEOP/ICB（CEOP国際調整部会）であり、本学の小池教授を代表として、東京大学(UT)、宇宙航空研究開発機構(JAMSTEC)、気象庁(JMA)の三機関からの相互協力によって成り立っており、2001年の発足以来、過去10年間に渡り、通算70回以上の会合を重ねてきました。今回の受賞理由は、世界的に統合化された水循環に関する観測体制を継続・発展する基盤としての役割を、CEOP/ICBが担ってきたこと、CEOP/ICBが世界の水循環に関する国際共同プロジェクト推進の牽引役を果たしてきたこと、などが高く評価されたことに由ります。

日本水大賞受賞記念式典および受賞活動発表会は、平成22年7月1日 東京都渋谷区にある国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われ、式典には、日本水大賞委員会の名誉総裁であられる、秋篠宮文仁親王殿下、ならびに、同妃殿下の紀子さまもご列席になりました。まず、日本水大賞委員会委員長である宇宙飛行士の毛利衛日本科学未来館館長から全体の講評があり、その後、秋篠宮殿下より、受賞者へお祝いのお言葉を頂戴しました。表彰式では、ICB代表の小池教授と同代表代理の石田中氏（JAXAアジア推進室長）が登壇し、毛利委員長から表彰状および副賞が手渡されました。

式典後の活動報告会では、同委員会の虫明功臣副委員長（本学名誉教授）から、各受賞活動の審査の講評をいただき、各賞の活動発表が行われました。全国津々浦々より集まった受賞団体によるそれぞれの活動や研究は、すべて人々の暮らしと水資源、水管理に関わるたいへん貴重な取り組みであり、お互いの発表に興味深く聴き入り、終始たいへん和やかな雰囲気の中で、記念式典が終了しました。



(写真2. 表彰状受賞の場面
右：毛利委員長、中央：小池教授、左：石田氏)



(写真3. 活動報告を行う小池教授と玉川特任研究員
プレゼンテーションタイトル:「地球水循環統合観測と利用実証の推進」)



(写真4. CEOP/ICBのメンバーたち)